

## 養護教諭養成課程の学生の養護教諭志望に対する意識調査

飛田 昭子\*・廣原 紀恵\*\*

(2015年9月15日受理)

Survey of college student attitudes in Yogo teacher education course regarding their wish to become a Yogo teacher

Akiko TOBITA and Toshie HIROHARA

キーワード: 養護教諭 養護教諭像 志向性

養護教諭の志願者数は年々増加傾向にあり、養護教諭は人気の職業の1つとなっている。そのような中で、養護教諭養成課程には養護教諭への志向性が高い者が入学してくると言われているが、養護教諭養成課程の学生の志向性や適正感是在学中プラスにもマイナスにも変化していくという報告もある。そこで、本研究では今後の学生の指導に活かすことや養護教諭養成教育の充実を図ることを目的に、学生の養護教諭への志向性の変化の有無や学生が持つ養護教諭像について質問紙調査を実施した。その結果、養護教諭への志向性は大学入学当初から高く、在学中もその意識は継続していくことが明らかとなった。一方、養護教諭への志向性は、養護実習後、特に中学校での養護実習後に一時的に下がる者がみられた。このことは、学生自身のイメージしていた養護教諭像や学校現場と現実に差異が生じたためではないかと考えられる。すなわち、養護実習は学生の養護教諭志向性に対して大きな影響を及ぼし、養護実習の指導内容、実習の期間や時期等検討する必要があること、幅広い養護教諭観を育てる教育がなされる必要がある事が示唆された。

### はじめに

近年、社会環境や生活環境の変化に伴い、学校現場における児童生徒の健康課題として、友人や家族の人間関係、いじめ、不登校、児童虐待などメンタルヘルスに係る健康課題や性的問題行動、薬物乱用、感染症やアレルギー疾患の増加などが挙げられる。

2008年の中央教育審議会保健・安全部会における答申<sup>1)</sup>において、養護教諭の職務は学校保健推進の中核的な役割を果たすことや、多様化している児童生徒の健康課題解決に向けた健康相談活動がますます重要になっていると述べられており、養護教諭に期待される役割が拡大してきていることが伺える。そのような中、養護教諭は人気ある職業の1つであり、養護教諭の志願者数は年々増

---

\*茨城町立大戸小学校 \*\*茨城大学教育学部

加の傾向にある<sup>2)</sup>。養護教諭志望者数増加の背景には、養護教諭免許を取得可能なのは教育学部の養護教諭養成課程の大学だけでなく、看護や健康・栄養・スポーツ・福祉等に関する学際系の学部でも取得できることなども考えられる。その中でも、教育学部養護教諭養成課程には養護教諭への志向性が高い者が入学してくると言われている<sup>3)</sup>。

大川ら<sup>4)</sup>は、養護教諭養成課程の学生の養護教諭志向性や適正感は在学中の学外実習等の影響を受け変化していくと報告している。そこで、本研究では、I大学の教育学部養護教諭養成課程の学生を対象に、学生指導に生かすことや養護教諭養成教育の充実を図ることを目的に、学生の養護教諭への志向性の変化の有無や学生が持つ養護教諭像について調査した。

## 調査方法

### 1 対象と期間

I大学教育学部養護教諭養成課程1年生31名、3年生31名を対象とし、質問紙調査を2011年11月に行った。なお、調査は1年生、3年生ともに無記名、自己記入式とし、I大学の講義担当教員の許可を得て講義開始前に配布し、記入終了後にその場で回収した。調査の目的及び調査への協力の任意性に関して配布前に口頭で説明し、調査対象者の了承を得た。質問紙の回答を提出することで調査に同意したものとし、1年生31名、3年生31名から回収され、回収率は100%であった。

### 2 調査内容と回答方法

回答は、選択肢から選ぶ方法と、自由記述で得た。自由記述で得られた回答は、言葉を抽出しコード化し、サブカテゴリ化した。得られたサブカテゴリをさらにカテゴリ化した。

#### 1) 現在の養護教諭への志向性

現時点でどの程度養護教諭になりたいと思っているかを①是非なりたい、②できればなりたい、③なってもならなくてもどちらでもよい、④なる気はない、⑤なりたくない、⑥なるかどうか迷っているという6項目から選択させた。

#### 2) 養護教諭を志望した時期と志望動機

上記の設定で、①是非なりたい、②できればなりたい、のいずれかを選択した3年生に対して養護教諭志望の時期と志望動機について、下記の表1に示すその他を含む15の選択の中から複数選択可として回答させた。

表1 養護教諭志望の理由

- |   |
|---|
| ①親に勧められているから<br>②学校(小・中・高)の先生に勧められたから<br>③養護教諭に勧められたから<br>④自分の学生時代(小・中・高)の養護教諭にあこがれているから<br>⑤養護実習に行って素晴らしい養護教諭と出会ったから<br>⑥養護実習を実施して養護教諭の職務はやりがいがあると感じたから<br>⑦養護実習を実施して保健室は学校の中の重要な場所だと思ったから<br>⑧養護教諭は価値ある職業だと思うから<br>⑨教員は安定した職業だと思うから<br>⑩自分の性格に適した職業だと思うから<br>⑪身体や心のケアに興味があるから<br>⑫保健室が好きだから<br>⑬子どもが好きだから<br>⑭大学で学んだことを活かせるから<br>⑮その他 |
|---|

### 3) 養護教諭を志望しなくなった時期とその理由

1)の養護教諭への志向性の設問に、養護教諭志向性無しとする③なってもならなくてもよい、④なる気はない、⑤なりたくない、⑥なるかどうか迷っている、を選択した3年生の学生に対してのみ、養護教諭になりたいと思わなくなった時期とその理由について、表2に示したその他を含む14の選択肢から複数選択可として回答させた。

表2 養護教諭を志望しなくなった理由

① 教員採用試験の倍率が高いと聞いた(確認した)から
② 他の職員の養護教諭の職務に対する認識が自分の持つ養護教諭の認識と異なっていたから
③ やりがいがある職務だと思わなかったから
④ 学校に対するイメージが違っていたから
⑤ 病院実習に行き、自信がなくなったから
⑥ 養護実習に行き、判断力・診断力に自信がなくなったから
⑦ 養護実習に行き、救急処置に自信がなくなったから
⑧ 養護実習に行き、健康相談に自信がなくなったから
⑨ 養護教諭の職に対して魅力を感じなくなったから
⑩ 自分の性格に適さない職務だと思ったから
⑪ 実習校で苦勞したから ※どんなことか具体的に書いてください。 ( )
⑫ 子どもがあまり好きでないことがわかったから
⑬ 実習中、子どもとのコミュニケーションがうまくとれなかったから
⑭ その他

### 4) なりたい養護教諭像

1年生に対してどのような養護教諭になりたいかを自由記述で回答を得た。

### 5) 養護教諭に対するイメージ

3年生に対し、養護教諭に持っているイメージを自由記述で回答を得た。

## 結果

### 1 養護教諭志望の有無

1年生と3年生の養護教諭志望について表3に示した。

1年生では「是非なりたい」54.8%、「できればなりたい」25.8%で合わせると約8割が養護教諭になることを希望している。また、3年生は、「是非なりたい」61.3%と「できればなりたい」29.0%で約9割の学生が養護教諭になることを志望している。

しかし、1年生では「なってもならなくてもよい」3.2%、「なるかどうか迷っている」16.1%、3年生では「なってもならなくてもよい」6.5%、「なる気はない」3.2%で養護教諭を志望しない者も少数みられた。

表3 現在の養護教諭志望の有無 (%)

	1年生 n=31	3年生 n=31
是非なりたい	17(54.8)	19(61.3)
できればなりたい	8(25.8)	9(29.0)
なってもならなくてもかまわない	1(3.2)	2(6.5)
なる気はない	0	1(3.2)
なりたくない	0	0
なるかどうか迷っている	5(16.1)	0

2 養護教諭になることを志望した時期

現在、養護教諭に「是非なりたい」「できればなりたい」と回答した3年生28名が養護教諭になることを志望した時期については表4に示したとおりである。

**表4 養護教諭を志望する学生の養護教諭になることを志望した時期** N=28

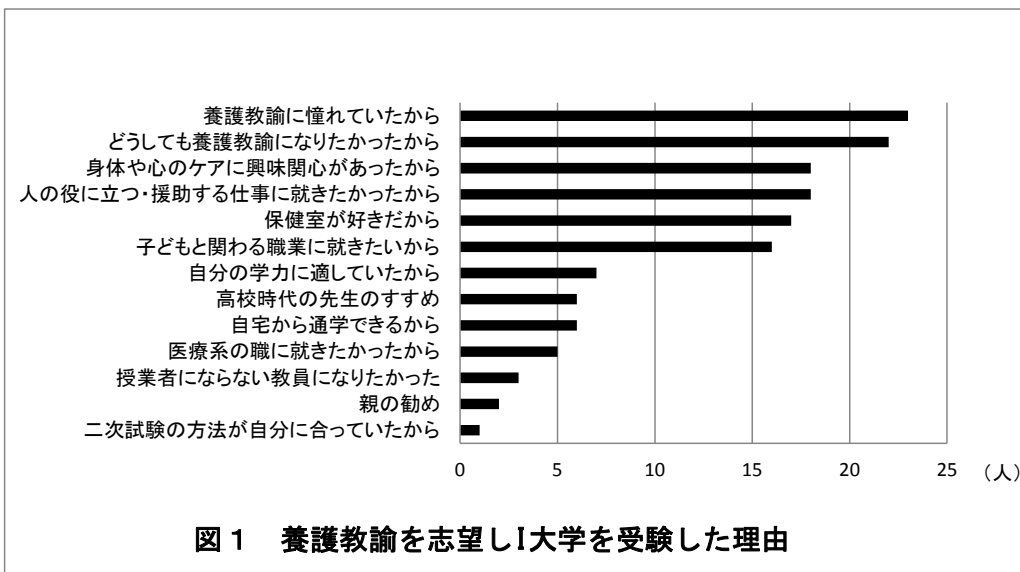
	入学前から	入学当初	1年後期	2年前期	2年後期	3年4月当初	小学校の養護実習中	小学校の養護実習後	病院実習中	中学校の養護実習中	中学校の養護実習後
n(%)	19(67.9)	2(7.1)	0	1(3.6)	0	1(3.6)	3(10.7)	1(3.6)	0	1(3.6)	0

養護教諭になることを志望した時期は「入学前から」が67.9%と最も多く、次いで「小学校の養護実習中」10.7%、「入学当初」7.1%であった。

3 養護教諭養成課程を受験した理由

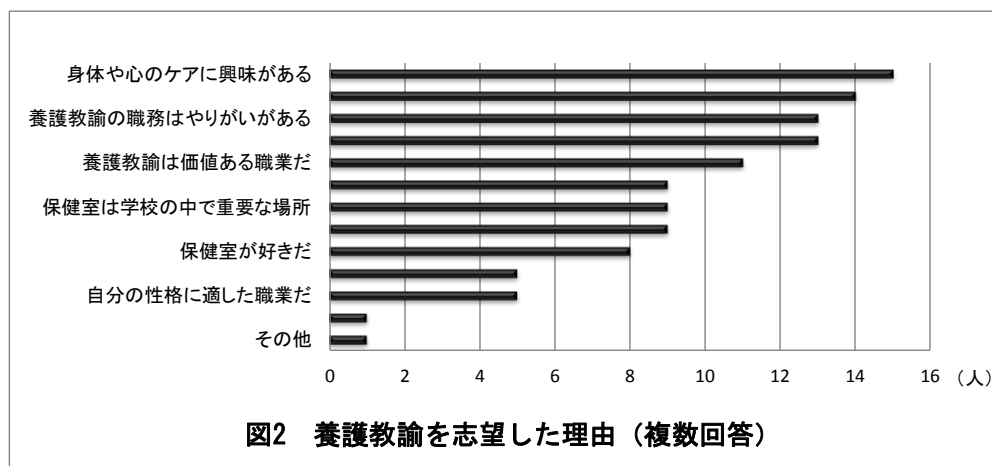
1年生がI大学の養護教諭養成課程に入学した理由については、図1に示した。

もっとも多かったのは、「養護教諭に憧れていたから」、ついで、「どうしても養護教諭になりたかったから」と入学前から養護教諭志向が高い学生が多かった。また、「援助する仕事に就きたいから」「身体や心のケアに興味がある」「保健室が好きだから」「子どもと関わる職業に就きたいから」も多くみられた。



3年生が養護教諭を志望した理由は図2に示した。

「身体や心のケアに興味がある」、「子どもが好きだ」、「養護教諭の職務はやりがいがある」「学生時代の養護教諭にあこがれて」を選択した者が多くみられた。



#### 4 養護教諭を志望しなくなった時期

養護教諭に「なる気はない」、「なってもならなくてもよい」、「迷っている」と回答した学生は、1年生で6名、3年生は3名みられた。1年生には志望しなくなった時期を尋ねていないが、3年生が養護教諭を志望しなくなった時期は、「3年の4月当初」が2名、「中学校での養護実習後」が1名だった。

#### 5 養護教諭を志望しなくなった理由

養護教諭に「なる気はない」、「なってもならなくてもよい」、「迷っている」と回答した学生に対してその理由を尋ねた。1年生は自由記述で、3年生は14の選択肢の中から複数回答可として選択させた結果は、表5、表6に示した。

1年生では、「教員採用試験の厳しさ」「養護教諭の役割や仕事を学ぶたびに自分にはできそうもないと感じてしまうから」「他人を思いやる職業につけるのか不安」などが理由として挙げられた。

3年生では、「自分の性格に適さない職務だと思ったから」「養護実習に行き、救急処置に自信がなくなったから」「子どもがあまり好きでないことがわかったから」「実習校で苦勞したから」を理由としていた。

**表5 1年生が養護教諭を志望しなくなった理由** n=6

教員採用試験の厳しさ  
結婚が大変そうだから  
他にもやりたいことがあるから  
感情のコントロールができず、人と付き合うのがへたなのに  
他人を思いやる職業につけるのかという甘えからくる不安  
養護教諭の役割や仕事を学ぶたびに自分にはできそうもない  
と感じてしまうから

**表6 3年生が養護教諭を志望しなくなった理由** n=3

救急処置に自信がなくなった  
実習校で苦勞した  
自分の性格に適さない職務だ  
子供があまり好きでないことが分かった

6 3年生が持つ養護教諭のイメージ

3年生が持つ養護教諭のイメージについて自由記述によって回答を得た。コードを抽出し、サブカテゴリ化し、さらにカテゴリ化した結果、表7に示したとおり、【人柄・雰囲気】【健康相談活動】【専門家】【安心感・母性】【受容的】【救急処置】【教員とは違う】【執務量】【採用が困難】の9つのカテゴリが抽出された。

表7 3年生が持つ養護教諭のイメージ

カテゴリ	サブカテゴリ(n)	主なコード	TN
人柄・雰囲気	優しい(10)	優しく、人の気持ちがわかる	39
	いつも笑顔(4)	明るく、笑顔であること。	
	明るい(4)	子どもたちだけでなく、先生方や保護者の方々の様子に気配りできる人。そして、明るく笑顔であること。	
	温かい感じの雰囲気を持っている(3)		
	冷静でてきぱきしている(3)	実習を等して、頼りない、怖い。	
	ほんわか(2)	判断力や柔軟な対応ができる。	
	元気(1)	どんな話も聞いてくれる	
	女性らしい(1)	冷静でてきぱきしている	
	気配りできる人(1)	縁の下の力持ち	
	自己管理がしっかりできる人(1)	いつも落ち着いていて冷静に対応している	
	判断力や柔軟な対応ができる(1)	いつも明るく、元気。	
	落ち着いていて冷静に対応している(1)	丸みがある。	
	意見をしっかり言える(1)	ほんわかした面を持っている一方で、しっかりしており、きびきびと動く時もある	
	学校全体を見回せる人(1)		
	子どもに対する記憶力がすごい(1)	子どもに対する記憶がすごい	
	子どもたちに好かれている(1)	子どもたちに好かれている	
	頼りない(1)		
孤独(1)			
こわい(1)			
健康相談活動	話を聞いてくれる(4)	安心して相談できる	10
	困ったことがあったら何でも相談できる(2)	困ったことがあったら何でも相談できる	
	安心して相談できる(2)	何でも話を聞いてくれる	
	優しく人の気持ちがわかる(1)	いろんな話をしても大丈夫	
	理解してくれる人(1)	悩みがあるときは真剣に話を聞いてくれる	
	心を開きやすい(1)	心を開きやすい	
	話しやすい(1)		
専門家	知識を持っている(3)	なりたいイメージとして、知識を持っているイメージ	7
	体や心についての専門家(1)	知識がある	
	身体や性などのデリケートな問題に対応できる(1)	専門職として学校で重要な役割を担っている	
	健康の専門家(1)		
	専門職として学校の重要な役割を担う(1)		
安心感・母性	安心できる(2)	学校でのお母さんの役割。いつでもまずは受け入れてくれる	7
	学校でのお母さんの役割(3)	お母さんのような存在。いと安心する。	
	愛情あふれる存在(1)	温かく、愛情あふれる存在。あこがれ。	
	面倒見がよい(1)		
受容的	受容的(2)	いつでもまずは受け入れてくれる	6
	いつでも受け入れてくれる(1)	すべてを受け入れてくれる優しい先生	
	すべて受け入れてくれる(1)	受容	
	子どものありのままを受け入れる(1)	いつでも迎えてくれる優しい人	
	いつでも迎えてくれる優しい人(1)	子どものありのままを受け入れる	
救急処置	応急処置をしているプロ(3)	応急処置をしてくれる	5
	少し薬品のおい(1)	少し薬品のおい。	
	衛生管理が不完全(1)	応急処置をしてくれる。	
教員とは違う	他の教員とは違う(1)	一般教員とは違う角度から子どもと関われる	2
	一般教員とは違う角度から子どもと関われる(1)	他の教員とは違う	
執務量	実は事務が大変(1)	担任の先生は忙しそうなお母さんがあるが、養護教諭はあまりそういう雰囲気を持たない(だけ)だから、話しやすい。	4
	職務も大変(1)		
	あまり忙しくなさそうな雰囲気(2)	暇そう。実は事務が大変。	
採用が困難	教採の倍率が高い(1)	教採の倍率が高いし、職務も大変だと思う。	1

「優しい」「明るい」「笑顔」「温かい雰囲気」「ほんわか」等のサブカテゴリが抽出され、優しい温かいイメージである【人柄・雰囲気】である。また、「受容的」「話しやすい」「話を聞いてくれる」「困ったことがあったら何でも相談できる」「理解してくれる人」「安心して相談できる」「いつでもまずは受け入れてくれる」「すべてを受け入れてくれる」「優しく人の気持ちがわかる」「心を開きやすい」のサブカテゴリが抽出でき、【健康相談活動】とした。すなわち、相談しやすい先生というイメージを持っていた。さらに、「知識を持つ」「心や体の専門家」「身体や性などのデリケートな問題に対応できる」「専門職として学校の重要な役割を担う」から、学校の中で心や体の健康の【専門家】としてのイメージ、「学校でのお母さんの役割」「安心できる」「愛情あふれる存在」といったサブカテゴリが抽出でき、養護教諭に対して【安心・母性的】なイメージを持っていた。

### 7 1年生のめざす養護教諭像

1年生がどのような養護教諭になりたいかを自由記述で回答させ、3年生が持つ養護教諭のイメージと同様にカテゴリ化した結果を表8に示した。

カテゴリ	サブカテゴリ	n
信頼性	児童、生徒に頼られる養護教諭	5
	子どもや教員、保護者に信頼される養護教諭	4
	子どもの心を踏みにじらない養護教諭	1
専門性	子どもの心身の健康のサポートができる養護教諭	4
	子どもの目線に立って深い理解ができる養護教諭	4
	健康についての知識を常に探求していく養護教諭	1
	子どもたちを様々な面から支援できる養護教諭	1
	知識をしっかり持っている養護教諭	1
健康相談活動	子どもの変化に気づける養護教諭	2
	人の痛みがわかる、受け止めらる養護教諭	2
	どんなことにも対応できる養護教諭	1
	生徒一人ひとりにきちんと対応し、ニーズに応えられる養護教諭	1
	学校生活を送るための支援に欠かすことができない	1
	いろんな人の架け橋になれる養護教諭	1
母性	優しいだけでなく、強い養護教諭	2
	学校の中のお母さんのような存在の養護教諭	1
	広い心を持って接することができる養護教諭	1
	いつも笑顔で子どもたちを受け止めることができる養護教諭	1
安心感	安心できる存在になる養護教諭	3
	みんなの心を安らげる養護教諭	1
	保健室にいて安心できると言われるような養護教諭	1
人柄・雰囲気	穏やかな雰囲気を持った養護教諭	1
	子どもと気軽に関わられる養護教諭	1
	教師とも子どもとも仲がよい養護教諭	1

1年生がになりたい養護教諭像は、「信頼性」「専門性」「健康相談活動」「母性」「安心感」「人柄・雰囲気」という6つのカテゴリが抽出された。「信頼性」「専門性」のカテゴリに含まれる記述が多い。ついで、「健康相談」に関する記述が多かった。1年生には「救急処置」に関する記述はみられなかった。

## 考察

### 1 養護教諭志望の有無と理由との関連

養護教諭養成課程に在籍する1年生の8割、3年生の9割が養護教諭になることを望んでいる。1年生の入学理由は、「養護教諭へのあこがれ」「どうしても養護教諭になりたい」が多く占め、養護教諭への強い志向性がみられた。養護教諭との関わりから影響を受け「養護教諭」そのものへの志向が高まる<sup>5)</sup>ことが報告されているが、それと同様なことがあったのではないだろうか。

また、3年生が養護教諭を志望した時期は約7割が「入学前から」で、次いで「小学校の実習中」が約1割だった。これらのことから、養護教諭養成課程に入学する大学生は、入学前から養護教諭になりたいという意識を強く持って入学し、在学中もその意識が継続していくと言えよう。高岡と大谷<sup>3)</sup>は「養護教諭養成課程に入学するということは、入学時点で職業を限定していることもあり、養護教諭という職業を強く意識し、ある程度の覚悟ができていますので入学時の養護教諭志向を高めたい」としている。さらに、小学校での養護実習後に養護教諭になることを志望していることから、小学校での養護実習は、養護教諭志望への意欲を高める要因であることが伺える。

しかし一方では、3年生の1割には「なるかどうか迷っている」「なる気はない」がみられ、在学中に進路について迷いや不安が生じ、養護教諭への指向性の低下が見られた。高岡と大谷<sup>3)</sup>は志向性の変化について、養護実習前と養護実習後に不安や学校に対する失望感、疲労感などで一時的に志向性の低下が起きる学生がいることを報告している。本研究でも3年生で養護教諭を志望しないと回答した学生は、志望しなくなった時期として中学校での実習後を挙げている。志望しない理由は、「自分の性格に適さない職務だと思ったから」「養護実習に行き、救急処置に自信がなくなったから」「子どもがあまり好きでないことがわかったから」「実習校で苦労したから」であった。このことから、養護教諭を志望し入学してきても、養護実習中に救急処置や児童生徒との関わりの中で、養護教諭としての自信を喪失するような経験を通し、養護実習での経験が学生の志向の低下に影響を与えていることが推察される。養護実習の指導者の意図や内容と学生の意識や実態とに差異があるのではないかと思われる。指導内容、実習期間や時期を検討する必要がある。また、養護実習において学生はコミュニケーション能力を高める必要があると感じているという報告<sup>6)</sup>もあり、児童生徒、教職員と上手にコミュニケーションが図れなかった際にも、自信喪失となり志向性の低下に繋がっているのかもしれない。さらに、養護実習を通して養護教諭が自分に適さない職業だと感じた学生は、自分が養護教諭に対して抱いていたイメージや大学で学んできた養護教諭観と学校現場における養護教諭の職務を経験することにより養護教諭像に差異が生じたのではないかと考えられる。

### 2 1年生のなりたい養護教諭像と3年生が持つ養護教諭に対するイメージの比較

1年生がなりたい養護教諭として自由記述したものを分析した結果、「信頼性」「専門性」「健康相談活動」「母性」「安心感」「人柄・雰囲気」の6つのカテゴリから構成されていた。このことから、1年生から養護教諭は健康に関する専門的知識を有している専門職であることと養護教諭自身の人間性を意識していることが伺える。また、「健康相談活動」に関する記述が多いことから、養護教諭の職務の中で特に「健康相談活動」を重視していることがわかる。なりたい養護教諭については、



梶原と永井<sup>7)</sup>の報告でも「優しく相談しやすい」「好感をもてる多面性を持っている」「子どもを中心に考え信頼関係がつけれる」など養護教諭の児童生徒への接する姿勢について挙げており、本調査でも同様な結果が得られ、信頼を獲得し、相談活動を重視した養護教諭を目指している傾向である。

3年生が持つ養護教諭に対するイメージでは、「健康相談活動」「保健室経営」「救急処置」といった職務に関するものと「明るさ」「優しさ」「母性」「安心感」といった養護教諭の雰囲気や人柄が抽出された。廣原と中村<sup>8)</sup>は養護教諭養成課程の学生対象の調査では望ましい養護教諭の要件として、「指導力と教養」「良好な人間関係」「多角的視点と基準の確立」「学校内外に広く人的資源がある」「組織力」「優しさ」を抽出し、養護教諭の職務内容の専門性と人間性が必要であると認識していたことを報告しており、同様に今回の調査対象の3年生も養護教諭の職務の専門性と人間性を重視していると思われる。

「信頼性」「健康相談活動」が挙げられ、「保健室経営」「救急処置」についての記述が1年生ではみられなかった。今回の調査では明らかにすることはできなかったが、養護教諭を志望する学生は、大学入学までに養護教諭から救急処置などの身体のケアを受けたことよりも精神面でのケアを受けた経験が多かったため、その経験からこのような結果だったのではないかと推察される。また、3年生は養護実習を通し、精神的な関わりだけではなく救急処置能力など、より幅広い養護活動、保健活動の必要性を知ることにより1年生との違いがみられたのではないかとと思われる。

また、後藤ら<sup>9)</sup>は「養護教諭」からイメージする語について、1年生では「受容」「相談」「優しい」「聴く」などの語で表されており、4年生では「職務」「救急処置」「癒す」などの養護教諭の職務や特質、保健室の機能を意識した語が挙げたことは、学生が養成教育での学びや経験を通し、養護教諭の職務の実際を理解していることの表れであると述べている。本調査でも「保健室経営」や「救急処置」といった養護教諭の職務に関する語は1年生ではみられなかったが、3年生ではみられたことは、養護実習での経験を通して養護教諭の職務についての理解が深まったことの表れではないかと思われる。「明るさ」「優しさ」「母性」「安心感」といった養護教諭の持っている雰囲気や人柄を表す言葉は、1年生がなりたい養護教諭像からも3年生が待つ養護教諭のイメージからも抽出された。「受容」「相談」「母」「優しい」「温かい」「聴く」などの語は、養護教育の過程で変化せず、養護教諭を目指すにあたっての根幹のイメージであり<sup>9)</sup>、「明るさ」「優しさ」「母性」「安心感」は、養護教諭が持つ資質なのではないかと思われる。今後は、相談のしやすさや養護教諭の人間性への着目だけではなくさらに、学生自身の養護教諭観が広がるような教育が必要であろう。

## まとめ

養護教諭養成課程の学生は、入学前から養護教諭への志向性が高く、入学直後や小学校での養護実習を通してさらに志向性が上がる。しかし、一方では志向性の低下も見られ、養護教諭への志向性を低下させるのは、3年生の4月や中学校での養護実習後であり、理由として、「救急処置に自信がなくなった」「実習校で苦勞したから」などが挙げられた。養護実習は学生の養護教諭志向性に対してプラスにもマイナスにも働き、養護実習の指導内容、実習の期間や時期等検討する必要がある。

1年生が目指す養護教諭像から、「信頼」「健康に関する専門家」「健康相談活動」「援助者」「母性・安心感」「優しさ」という6つのカテゴリを抽出した。3年生が持つ養護教諭のイメージからは「人柄・雰囲気」「健康相談活動」「専門家」・「安心感・母性」「受容的」「救急処置」「教員とは違う」「執務量」「教員採用が困難」という9つのカテゴリを抽出した。3年生は1年生よりもサブカテゴリ数、カテゴリ数とも多く、大学での学びや養護実習や病院実習を経験し、それらを通してより具体的な養護教諭像を形成していた。しかし、対象が地方の1大学の学生に限られているため、養護教諭として養成されている学生一般の知見としては普遍化できない面もあるが、養護教諭に対する意識や学びについての考えの一端を明らかにすることができた。

### 引用文献

- 1) 文部科学省 中央教育審議会「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」2008。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/5/005/gijiroku/07071821/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/5/005/gijiroku/07071821/001.htm) (アクセス日:2014.8.30)
- 2) 養護教諭(保健室の先生)採用試験の難易度・合格率・倍  
<http://careergarden.jp/yougokyouyu/exam/> (アクセス日:2014.8.30)
- 3) 高岡雅 大谷尚子「学生の養護教諭志向と適正感に関する研究―臨地実習の意義と学生指導の在り方を考える―」『日本養護教諭教育学会誌』第2巻(1999), 67-77.
- 4) 大川尚子 倉恒弘彦 平田まり 野口法子 藤原和美「学生の養護教諭への志向性と養護実習の自己評価、満足度との関係」、『関西福祉科学大学紀要』第15巻(2011), 115-122.
- 5) 廣原紀恵 奥田紀久子 郷木義子「看護系大学生と養護教諭養成短期大学生の養護教諭イメージと養護教諭の職務内容に関する認識」『教育保健研究』第16巻(2010), 21-29.
- 6) 八重樫節子 小貫麻美「養護実習における養護実習生の学びの実態―養護実習指導における質問紙調査から―」『東京福祉大学・大学院紀要』第2巻2号(2012), 183-189.
- 7) 梶原京子 永井純子「養護教諭養成課程学生の保健室利用状況と養護教諭イメージ」、『第40回中国・四国学校保健学会講演集』(2008), 40-41.
- 8) 廣原紀恵 中村朋子「養護教諭養成課程の学生による養護教諭の職務内容に関する認識と養護教諭像」『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』第55巻(2006), 305-314.
- 9) 後藤多知子 萩原琴弥 後藤和史「養護教諭志望学生における養護教諭に対するイメージの変容」『瀬木学園紀要』第5巻(2011), 32-37.